

平成30・令和元年度
県指定研究協力校「魅力ある学校づくり（不登校対策プロジェクト）」研究公開
湧水町立栗野小学校

1 研究主題

子どもの自己肯定感を育む魅力ある学校を目指して

2 研究発表

湧水町立栗野小学校では、児童の自己肯定感の向上を目指し、平成30年度からの2年間、県指定研究協力校として本テーマで研究・実践を推進してきました。

研究発表では、物事に意欲的に取り組み、周囲との関わりの中で自他を肯定的に捉え、自分を高めていこうとする児童の育成を目指し、授業における学習方法や学習内容の工夫、授業外の活動の充実、そして、校務の効率化による児童理解と教材研究のための時間の確保に取り組んできました。

仮説及び主な取組は以下のとおりです。



【全体会の様子】

【仮説1】

教科等の学習において、課題活動に進んで取り組ませ、互いに学び合わせる学習を展開すれば、子どもたちの自己肯定感を育むことができるのではないだろうか。

〈具体的な取組〉

- ・ 学習方法で自己肯定感を育む工夫〔達成感を味わわせる手立てと豊かに学び合わせる手立て〕
- ・ 学習内容で自己肯定感を育む工夫〔学級活動(2)の年間指導計画への位置付けと学習過程の工夫〕

【仮説2】

授業外の教育活動において、自己を生かし互いに認め合う取組の充実を図れば、自己肯定感を育む素地がつくられるのではないだろうか。

〈具体的な取組〉

- ・ 互いに認め合う取組の実践
- ・ 実態調査の作成及び活用

【仮説3】

教材研究や教育相談の時間を確保し、授業力を高めたり、子どもたちに対する理解を深めたりすれば、子どもたちの自己肯定感を育むことができるのではないだろうか。

〈具体的な取組〉

- ・ 教材研究や教育相談のための時間確保の仕方

3 公開授業

第2学年では、今栄 ほさな教諭が、学級活動(2)「成長した自分や友達について知ろう」の授業を行いました。児童が自信をもって学習したり生活したりすることができるような工夫が随所に見られました。また、自他のよさや成長に気付かせていくために、協働的に学ぶ場を設定し、よりよい学級づくりに向けて、児童一人一人が自分にできそうなことを決めていく活動が展開されました。



【第2学年研究授業】

第6学年では、迫 春希教諭が、国語科の教材「海の命」で、読み取った登場人物の生き方に対する自分の考えをもつ授業を行いました。学び合いを通して、児童は、自他の考えを比較しながら、そのよさに気づき、自分の考えに生かしていました。また、振り返りの場面では、視点「わ・き・で・つ・い」(*)を基に、他者の考えを認める活動を設定し、自己肯定感の向上へつなげていました。



【第6学年研究授業】

* 「わ(分かったこと)き(気付いたこと)で(できたこと)つ(次やってみようこと)い(生活の中で生かしたいこと)」の観点で、「わがふり(自分の振り返り)」と「ともふり(友達関係の振り返り)」の2種類の中から児童が主体的に選択する。

4 分科会

それぞれの分科会では、仮説1における学習方法や学習内容に関する手立ての有効性を視点に、ワークショップ型の研究協議が行われました。地区内外から参観された方々は、栗野小の児童の生き生きとした学習の様子と自校の実態や取組を照らし合わせながら、魅力ある学校づくりの在り方について、熱い議論を交わしていました。



【第6学年分科会】

- 自己肯定感を高めるために、細かな手立てや認め合いの場を設定されていることが分かった。特に授業内での認め合いは、勉強の苦手な児童も学校が楽しいと思えるようになって感じた。研究を通して、「教師の意識が変わった」という言葉が印象的だった。
- 先進的な研究に多くの学びをいただいた。特に子どもの学びの姿に着目しながら研究に取り組まれているところがすばらしいと思った。
- 成果と課題が明確で、栗野小んが実践されてきたことがよく理解できた。働き方改革に向けての取組や人間関係づくりの取組がとても参考になった。

